



事件は現場で、進路も現場で

▼12月7日（金） ●●

1 数学

*今日は簡単だった（今日だけは…）

2～3 生物

*バイオームでした。

4～5 芸術

*美術はフィーリング。

6 現文

*アメリカ鬼畜です！

7 漢文

*オワター！！

やっとテストが終わりましたね。お疲れ様です。テストが終わったというのに、昨日は結局3時まで起きてました(担任：Why?)。眠いです(担任：夜更かしして授業中に眠いのは最悪のパターンですよ!)。数学のテストの解き直し(担任：これが大事!)が、月曜日提出だそうです。これは、あとでやろうと思って、最終的に日曜日に徹夜するフラグですね(担任：徹夜でせっかくの復習が頭に入らないようでは困るので、しっかりと計画的にやりましょう)。こんくらいの長さの文で限界です…(担任：ご苦労さま)。

*

朝日新聞の日曜日版には、世界の様々な話題を掘り下げた取材で伝える「GLOBE」という付録がついてくる。テスト前の12月2日(日)は「恐竜」の特集で、なかなか面白かった。進路を考える上で参考になることもあるので、ここでちょっと紹介してみたい。それは、読者が「つぶやいた」素朴な疑問に対

して、国立科学博物館研究主幹の真鍋真さんが答えている次のような一節である。

B 恐竜の研究者になるには？

(答) 大学の地球科学科や生物学科で地質学、古生物学、動物学などを勉強して、大学院で恐竜など中生代の爬虫類や鳥類の研究で博士号を取るとというのが、従来は一般的なルートでした。最近、コンピューターシミュレーションなどの工学的な研究や、鳥類の発生学的な研究が恐竜研究に応用されるようになってきましたので、多様なルートから恐竜の研究者をめざすことができるようになっていきます。中・高校生に質問されたら、理系の研究者は英語で情報収集をして論文を書かなくてはならないので、英語が好きであることが重要であると話しています。

▼真鍋真(まなべ・まこと) = 1959年生まれ。米イェール大学大学院修士課程、英ブリストル大学大学院博士課程修了。国内外の化石を通して、恐竜や他の動物の進化について勉強している。

*

実は前に担任をしていた時に同じ質問を受けてうまく答えられなかったのだが、さすが専門家である。面白いと思うのは「多様なルートから恐竜の研究者をめざすことができる」という部分。こういうことは専門家でなければ自信を持って答えられないだろう。進路を決める際には、やはり「現場」に出かけて、直接質問するのが参考になる。オープンキャンパスなどを積極的に活用してほしい。